

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、
私たちは全てのライフラインが断たれるという混乱を経験しました。
緊急車両のガソリンさえも不足し、深刻な物資不足に陥ったあの時。
支援物資を積んだBDFトラックが被災地を奔走しました。
東北の経験を、今後の「もしも」のために活かしてほしい。
そんな思いを込めて。
未曾有の大震災を乗り越えた、東北の「生の声」をお届けします。

事前防災と 再生可能エネルギー



平成 27 年

9/5 (土) 13:00 ~ 16:00
愛媛県総合社会福祉会館 視聴覚室
住所 愛媛県松山市持田町3丁目8-15 電話 (089) 921-5070

13:00 ~ 13:05 開会挨拶

13:05 ~ 13:35

話題提供 東北から①「虹色の世界と灰色の世界」

講演者：新妻 弘明氏（東北大学名誉教授、日本 EIMY 研究所所長）

13:40 ~ 14:00

話題提供 東北から②「命をつないだエネルギー I」 (BDF)

講演者：野中 章久氏（独立行政法人東北地方農業研究センター）

14:05 ~ 14:25

話題提供 東北から③「命をつないだエネルギー II」 (BDF)

講演者：佐々木 明宏氏（NPO 法人環境パートナーシップいわて）

14:35 ~ 15:55

意見交換 東北 × 四国

15:55 ~ 16:00 閉会挨拶



主催：四国 EPO × EPO 東北

参加費
無料
(要申込)

2011年3月11日（金）東日本大震災。
 水や食糧、医薬品、すべての物資が困窮し、
 復旧が遅れたた背景にガソリン不足がありました。
 電気も暖房も点かず、暗く寒い避難所。
 そんな中、物資を届けるため奔走したBDFトラック。
 灯りを灯すために設置された太陽光パネル。

多くの喪失とともに、多くの学びがありました。
 東北・岩手県から、大震災の経験と教訓をお届けします。

さあ、四国ではどんな事態が想定されるのか。
 皆さんと一緒に考えましょう。



東北のゲストのご紹介



◎ 新妻 弘明 氏 (東北大学名誉教授、日本 EIMY 研究所所長)

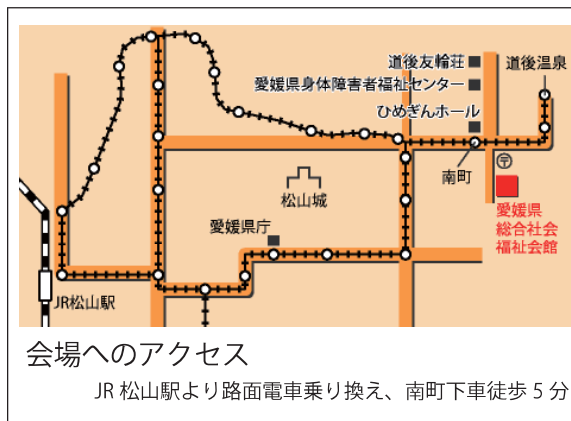
1975年、東北大学大学院工学研究科電気及通信工学専攻博士課程を修了。
 電気・電子計測、地熱エネルギー利用技術、再生可能エネルギーなどに関する研究に従事した。
 2002年、エネルギーの地産地消である EIMY (Energy In My Yard) の概念を提唱し、その実現のための実践的研究を岩手県、宮城県、福島県、長野県などで取り組んでいる。2012年、東北大学を退職後、日本 EIMY 研究所を設立し、行政や NPO 等さまざまな組織と連携しながら、地域のエネルギーや資源を地域のために最大限活かす社会の実現を目指して多方面で活躍されている。

[BDF] 野中 章久 氏 (独立行政法人 東北農業研究センター)

東北農業研究センターで農業経済を中心とした幅広い研究を行っている。農村内の資源利用の研究の一環として BDF に長く携わる。東日本大震災時の東北地方で起こっていた BDF のミスマッチをきっかけに、東北全体の BDF 関係者間でのネットワークの重要性を説く。

[BDF] 佐々木 明宏 氏 (NPO 法人 環境パートナーシップいわて)

NPO として東日本大震災からの復興と急激に進行する人口減に向けて「ここちよく豊かに生き延びるために」というテーマを掲げて、現在「廃食油の資源化活動を通じて、三陸の復興および豊かで持続可能性のある地域社会をめざすプロジェクト」として、沿岸の方々に震災当時の内陸での取り組みについてお伝えしています。



※お知らせいただいた個人情報は適切に管理し、本企画に係る事務連絡以外の目的で使用することはありません。
 ※ウェブサイト等で当日の会場の様子を発信するため写真撮影をいたします。ご了承ください。

参加申込書

①氏名 (カナ)、②所属、③メールアドレス、④電話番号をご記入の上、FAX、メールまたはお電話にて事務局までお知らせください。

①氏名 (カナ)	②所属
③メールアドレス	④電話番号

お問い合わせ | 環境省四国環境パートナーシップオフィス (四国 EPO) 〒760-0023 香川県高松市寿町 2-1-1 高松第一生命ビル新館 3F
 お申込み先 | TEL : 087-816-2232 FAX : 087-823-5675 メール : 4epo@4epo.jp